

・本号は前号の調査成果一覧を参考にお読み下さい。



図1 飯隈遺跡群地下式横穴墓位置図 ※地下式横穴墓の縮尺は任意です。

1、大隅半島の地下式横穴墓は？

近年大隅半島では、高速道路や農道の整備・遺跡の現状を把握するための学術調査・畑の陥没による不時発見などの理由で、地下式横穴墓の発掘調査が行われました。そのような調査の成果からお墓の構造に一定の法則があることがわかってきました。一つ目の法則は、妻入りと呼んでいる縦に掘ったお墓は古墳群内に限って発見されています。また、二つ目の法則は、平入りと呼んでいる横に掘ったお墓は古墳群内だけでなく当時の集落周辺でも発見されています。

大崎町でも同様の法則がみられ、平成13年度から15年度に発掘調査をした岡別府にある下掘遺跡（しもほりいせき）では集落に伴う地下式横穴墓で平入りが7基見つかっています。また、平成17年度に発掘調査した神領古墳群（天子ヶ丘集落から後迫集落周辺）の近接になる地下式横穴墓では妻入りが1基発見されました。



写真1 22号玄室右壁

2、飯隈遺跡群の法則は？

では、飯隈遺跡群のお墓の構造を上記法則にあてはめてみるとどのようなことがわかるのでしょうか。

飯隈遺跡群は図1のとおり古墳（円墳）があり、今回の発掘調査範囲でも妻入りが見つかると思われていました。ただし、実際は平入りのお墓も発見されていて、平入りの玄室構造は位の高い人に用いられていると思われる家型も確認されました。また、写真1のように、22号では天井・壁面・床面に砂が塗られていて、天井は木造の桁を模して掘り出していました。

以上の結果から、飯隈遺跡群は古墳が存在しているにもかかわらず、妻入りだけでなく平入りのお墓も存在し、平入りのお墓の方が位の高い人が眠っている可能性が高いという意外な事実がわかってきました。これに加えてお墓の空間に軽石製石棺（かるいしせいせっかん）を置く地下式横穴墓もあり、昭和30年代に行われた飯隈遺跡群の発掘調査で地下式横穴墓から軽石製石棺が発掘されています。現在飯隈遺跡群で発掘された軽石製石棺は、宮崎県の西都原古墳群にある西都原考古博物館に貸出していて、常設展示コーナーにて展示されています。お近くに行かれることがありましたら、ぜひお立ち寄りください。

次号④では副葬品からみえる飯隈遺跡群をご紹介します。



※中央公民館郷土資料展示室で展示しています。

写真2 神領遺跡群8号地下式横穴墓軽石製石棺

大崎町教育委員会 大野泰輔